

水際線まちづくりにおける 山下公園の整備について

【11/28 景観審査部会のご意見を踏まえたご報告】

主 な ご 意 見

【公園の歴史や経緯、現状を踏まえた公園計画の検証】

- 山下公園の整備計画の全体として、**歴史や経緯を踏まえたもの**となるよう、検証してもらいたい
- 施設を新設することで既存の利用を阻害することのないよう、**現状とアクティビティの分析を実施**した上で計画を進めてもらいたい

【エリアごとの特性を踏まえた施設計画】

公園通り沿いも場所ごとに性格が異なるため、**エリアごとに分析をした上で各施設の配置計画等を検証**してもらいたい

【施設デザインの検証・周辺景観との調和】

新たな施設がもたらす風景の変化が果たして問題ないのか、立体的な視点で検証してもらいたい

【施設の数量・配置の再検討】

全体として、**施設が多すぎると考える**。こんなに人を座らせる必要があるのか検証してほしい

【フラットバーの整備イメージ・街路樹との関係性】

- フラットバーは歩行動線のすぐ脇に整備されるが、そこに人が並んで座るのが**疑問**がある
- 公園通り沿いと街路樹の関係性を示したうえで、検証すること

【伐採する樹木】

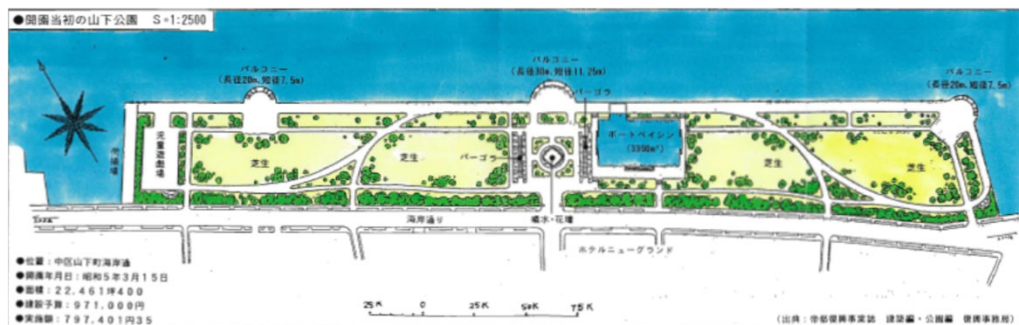
どの程度樹木を伐採するのかがわかるように資料に反映してもらいたい

【暑熱対策】

- 夏場の暑熱対策について、公園通り沿いは木陰を利用した滞留空間でよいと感じた
- **暑熱対策の具体的な例（日影や水辺等）を資料の中でも示して**もらいたい

公園の歴史や経緯、現状を踏まえた公園計画の検証

【公園の歴史性】昭和5年に開園して以来、当初の形態が現在に色濃く残されていることから『国指定登録記念物』に指定



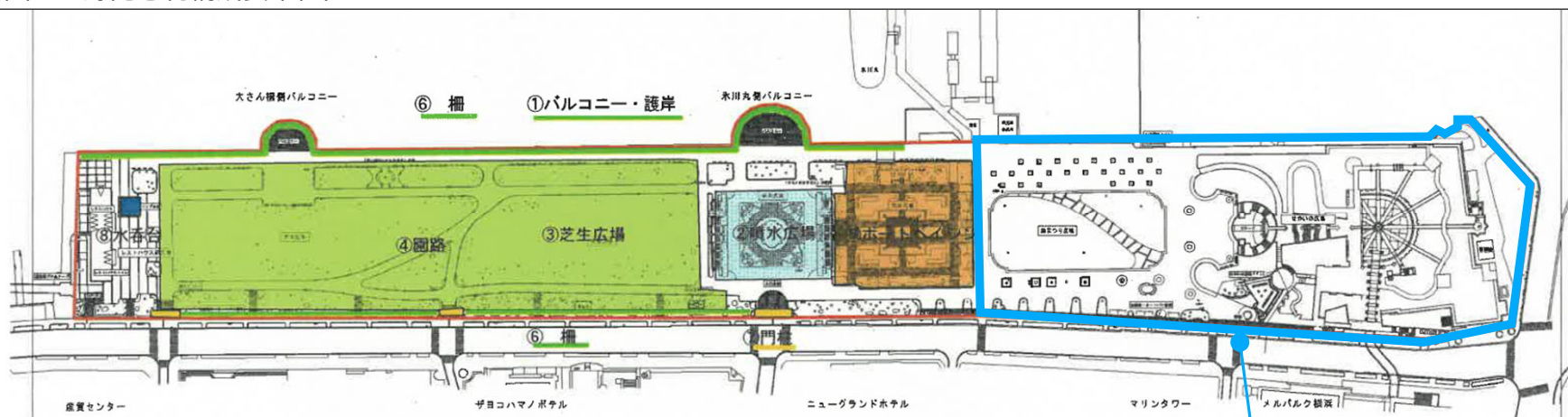
整備当初の山下公園（昭和5年）



公園の骨格は現在に残されている



◆山下公園 登録記念物構成要素位置



【平成元年】
・YES89横浜博覧会に合わせて
おまつり広場～世界の広場を整備
・今日まで市民に広く親しまれている

【公園の現状】臨海公園として海が魅力の公園 海を目指して来られる多くの来園者の期待に応え 更なる磨き上げが必要



芝生広場は家族連れでの遊びやピクニック等での利用など、最も公園らしい利活用がなされていて、海への景観が開ける空間。



海沿いの園路は山下公園の顔であり、エリアごとの港の景観を楽しむ多くの利用者で賑わうが、舗装はやや単調で魅力向上の余地がある。ベンチは休日には座れないほど人気であるが、全て二人掛けであり、多人数の利用に適さない面も。



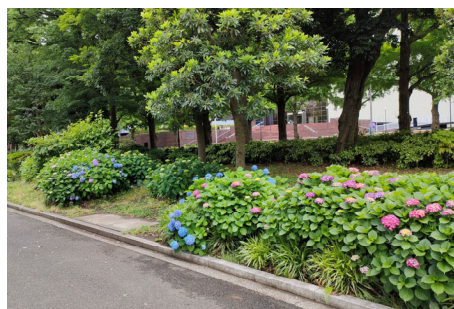
お祭り広場はハマフェス等の大型イベントで多くの方が利用。一方、普段は落ち着いた雰囲気であるが、芝生広場として利用されている。海側ベンチでは、海を眺めながら座る方が多い。



水際線側からの玄関口にあるワーフハウスは飲食店としてにぎわっている。ピクニックセットの貸し出し等、芝生広場での新たな利活用も創出。店舗前の広場では、大道芸なども実施。



山下公園通り側は木陰の落ち着いたエリアであり、比較的使用は少ない。公園内から通りの車両が見えないよう植栽管理をしていたが、現在は、閉鎖感の解消や明るさや見通しの確保が求められている。



公園通りは仮装行列、ワールドフェスタなどのイベント時に歩行者に開放し、にぎわっている。まちのブランド力向上のためにも、公園側との一体感がより一層必要とされており、公園の入口が少ないことも課題の一つとなっている。



中央広場、沈床花壇は、中華街からの主要入口から入った先にある象徴的なエリア。水の守護神、噴水、花と緑がある。バラの名所で写真スポットとして有名。多くの人で賑わうが、夜間の暗さが課題にもなっている。



公園の歴史や経緯、現状とアクティビティを踏まえ 以下の2つの観点で公園整備計画の目的・方向性を整理

残すべきもの

◆山下公園の歴史と経緯を踏まえたデザイン

○公園全体

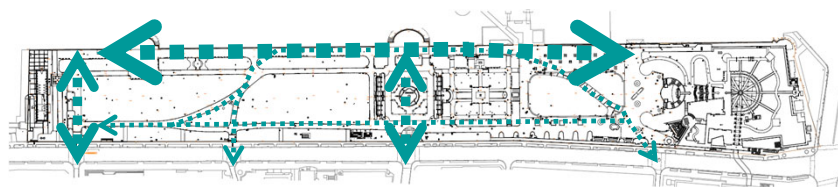
- ・過去から継承された園路構成とゾーニング
- ・現況の景観に調和した各施設の意匠

○公園通り沿いエリア

- ・通り沿いの石柱や重厚感のある意匠（登録記念物）
- ・通り沿いの緑陰

○海沿いエリア

- ・海沿いの港の景色と一体になった景観
- ・観光客に人気の海沿いのベンチがある景観



さらに磨き上げるもの

◆時代の変化により 公園に求められていることに対応

○公園全体

- ・夏の暑さへの対策
- ・インクルーシブなまちづくりへの貢献

○公園通り沿いエリア

- ・公園通り沿い緑地の閉鎖感の解消と見通しの確保
- ・まちと公園の往来ができる入口の拡充による一体感の醸成
- ・夜間の暗さへの対応

○海沿いエリア

- ・ベンチの不足と老朽化の進行への対応
- ・ベンチが単一的で、多人数でフレキシブルに使いにくい点への改善



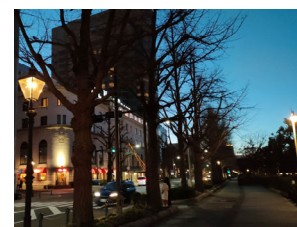
海沿いは日影が少なく
夏の暑さ対策が課題



バリアフリーの推進が必要



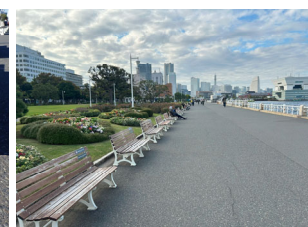
通り沿い緑地の見通しの課題
（まちから港の景観を感じにくい）



通り沿いは暗いとの指摘がある



ベンチは老朽化が進行している



2人がけのベンチが並んでいる

経緯や現状を踏まえた検証を行い、全体整備の方向性を整理

【整備方針】過去の歴史的経過を踏まえながら 時代に合わせた変化に対応し 公園をよりまちに開かれた魅力的な空間にアップグレードする

- ・登録記念物として継承された園内通路やゾーニングを守りながら、公園の磨き上げを実施し『まち～公園～みなと』をより一体感のある景観とする
- ・まちや公園の既存施設の意匠を尊重し、意匠上の調和を図りながら魅力的な景観やビュースポットを作り上げる
- ・新たなまちづくりが進みつつある公園通りのにぎわいづくりにも資する計画とする

○海沿いエリア

現状の港の景色と調和した意匠をさらに磨き上げ、もっと歩きたくなる、過ごしたくなる場所にする

- ・老朽化の進行した海側ベンチの更新と数の充実を図るほか、多様な使い方のできる居場所となるよう機能向上させる
- ・ベンチの意匠は舗装等の意匠とも合わせ、山下公園が誇る水辺の景観をより洗練されたものにしていく

【整備内容】老朽化した海沿いのベンチや舗装をより魅力的なデザインものへと更新



○公園通り沿いエリア

まちの重厚感のある意匠と調和し、まちと公園が一体となった緑豊かでウォーカブルな空間を作り上げる

- ・まちから港への視線を確保することにより、一体的な景観を創出するほか明るさ確保により安全性も向上させる
- ・公園通りからの入口を新設し、まちとの境界をぼやかせることで、将来に向けたまちづくりを進める公園通りの「ウォーカブルで居心地がよい通り」の実現に寄与する
- ・公園通り沿いの緑陰に散策・休憩できる場所を創出し、海側の良好な景観を眺めながら暑さ対策にも資する場所とする

【整備内容】公園通り沿いの緑地に新たな入口／園路／ベンチ等を整備

エリアごとの特性を踏まえた施設計画

公園への動線や現状のアクティビティなど、エリアごとの特性を踏まえた整備方針を整理

【山下公園通りのまちづくりビジョンにも配慮】



画像 ©2026 Google、地図データ ©2026

【エリア①】ワーフハウス前

多くの来園者が訪れ、滞留しにぎわいをみせる場所

→食事しながら会話するなどの
多様な利活用を
多くの方が楽しむことができるよう
ベンチ・縁台を配置

【エリア②】県民ホール前

樹木に囲まれ木漏れ日の中でゆったりくつろげる場所

→見通しは確保しつつも 樹木の間から
・氷川丸などの景観を楽しめる
・お茶を飲んだりゆったり休める
居心地の良い空間を演出

【エリア③】建物エリア

トイレや電気室など施設が多く休憩などには向かない場所

→通過動線に特化させて
入口・園路を整備し
利便性を向上させる

【エリア④】ニューグランド前

横浜らしい景観が楽しめる待合所

→景観を楽しみながら沈床花壇や
中央噴水側への散策に期待を抱かせる
バスの待ち合わせ利用にも対応
できるようベンチ・縁台を設置

【公園通りの状況】

産業貿易センターが立地するほか、県民ホール/ホテルモントレ横浜の跡地となっており、以前より人の往来が少なくなっている。今後のまちづくりにおいて、関内駅側からの来街者を迎え入れる場所としての機能強化が検討されている。

【公園通りの状況】

駐車場となっており、人の往来が少なく、景観がよい場所とは言い難い

【公園通りの状況】

ホテルニューグランドが立地し、格式高い建物外観を臨むことができる。今後のまちづくりにおいて、山下ふ頭に向かう結節点としての機能強化が期待されている



【エリア①】ワーフハウス前



【エリア②】県民ホール前



【エリア④】沈床花壇・ニューグランド前

デザインコード：山下公園は本市の景観計画上「関内地区」に該当

[この山下公園通り沿いの街並みを守ってきたデザインコードを踏襲し、今回整備範囲の景観づくりに反映]

関内地区の特徴 [抜粋]

- ・開港の歴史や戦後の都市発展の歴史を伝える歴史的建造物などの保全・活用や時代に応じた建物の誘導により、古い建物と新しい建物が共存する魅力的な街並みを形成
- ・このような関内地区の特徴を伸長しつつ、街並みをさらに魅力的なものとし、世界に誇れる横浜の顔づくりを行う

景観計画区域図（関内地区）



景観重要公共施設の整備に関する事項 (2) 山下公園通り [抜粋]

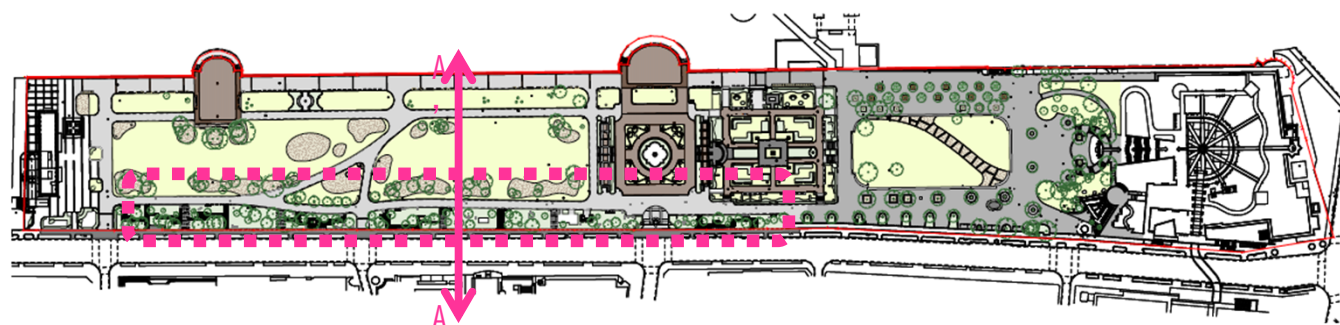
- ア 道路の付属物となる工作物等の
形状は、山下公園や港に面した環境、歴史ある格調高い街並みに調和させる
- イ 道路の付属物となる工作物等の
色彩は、ダークグレーとする（マンセル表色系）
- ウ 道路付属物に付随する設備の
大きさは、これらの機能を確保又は維持できる範囲で小さいものとする。
- エ 歩道の舗装は、山下公園や港に面した環境、歴史ある格調高い街並みと調和する重厚な素材のものを使用
- オ イチョウはできる限り自然樹形に近いものとし、連続したイチョウ並木の景観を維持する

都市公園の整備に関する事項 (2) 山下公園 [抜粋]

- ア 公園内の設備及び施設などは、「見通し景観形成街路」からの山下公園を通して港や氷川丸への見通しや港からの眺望を妨げない配置とし、港の雰囲気と調和した形態意匠とする
- イ インド水塔などの歴史的な建造物を保全する
- ウ 公園内の植栽は、「見通し景観形成街路」からの港や氷川丸への見通しに対して配慮した配置とする

山下公園通り沿いの街並みを守ってきたデザインを踏襲し、今回整備範囲の景観づくりに反映

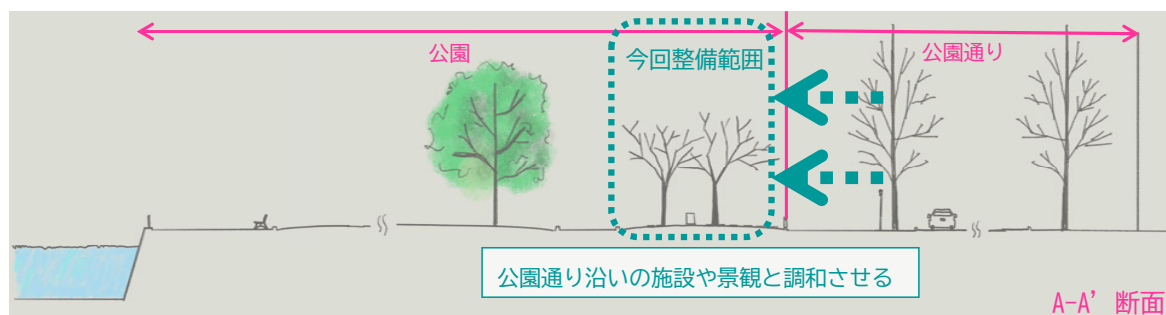
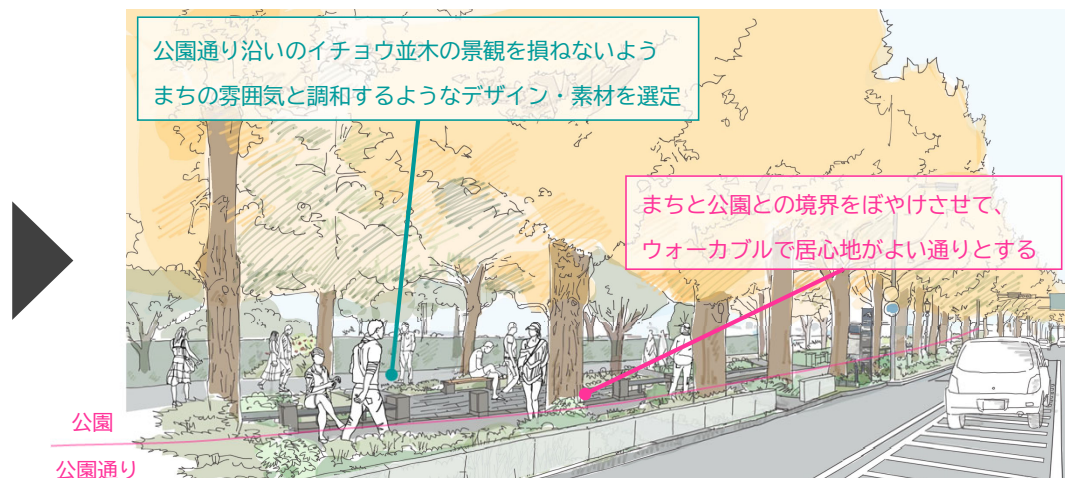
〔山下公園や港に面した環境、歴史ある格調高い街並みと調和する重厚な素材／イチョウ並木の景観を維持〕



Before

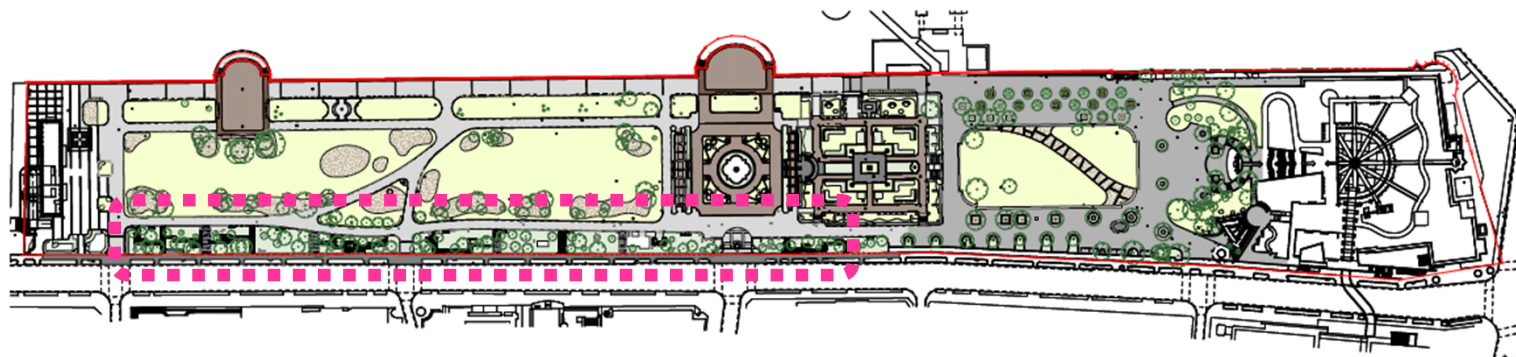


After



山下公園通り沿いの街並みを守ってきたデザインを踏襲し、公園通り沿いの施設意匠に反映

〔山下公園や港に面した環境、歴史ある格調高い街並みと調和する重厚な素材／イチヨウ並木の景観を維持〕



ベンチ・縁台の座面は
公園通りのイチヨウ並木や
通り沿いの既存の緑と
調和するよう木座面とする
ただし、落葉による汚れ等
の維持管理がしやすいよう
素材は擬木を使用する



外周柵は
通り沿いのガス灯の
意匠を踏襲した
フラットバーとする



新たな緑陰の小路は
既存の公園出入口の舗装
と同じ素材を使用し
一体感のある景観とする
入口はバリアフリー形状
とする



ベンチ・縁台の柱は
通り沿いの既存石柱
（国指定登録記念物）
の意匠を踏襲する

各エリアごとにアイレベルでパースを作成 周辺景観や海とまちへの見通しに対する影響の検証を実施



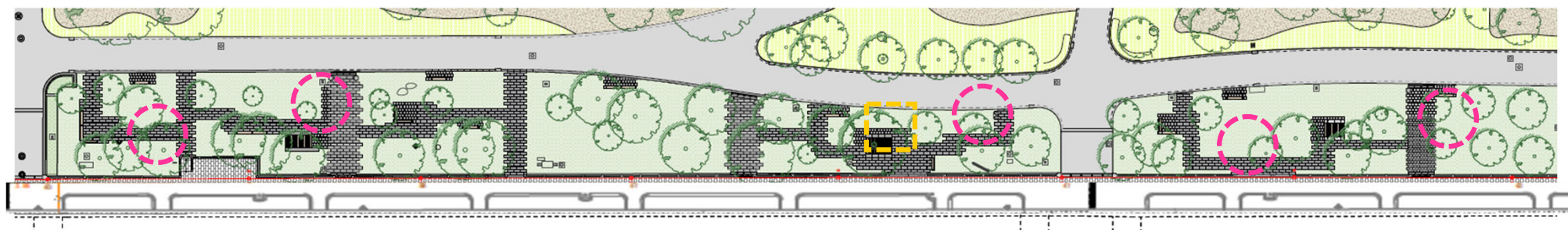
各エリアの現状や視認性、動線を再検証し、ベンチや縁台の配置を調整

[今後、樹木の根のはり方や地形の高低差を詳細に把握、ベンチに座った際／樹林地内を散策している際の景観を検証しながら現地で施設配置を最終決定]

主な変更点

- －既存の入口との離隔や、公園通りからの視認性・景観を確認し、入口や小路の位置を再設定（数量減）
- －場所の特性（人の動き、樹木量等）や木陰に座れるような配置、座った際の景観を確認し、ベンチや縁台の位置を再設定（数量減）

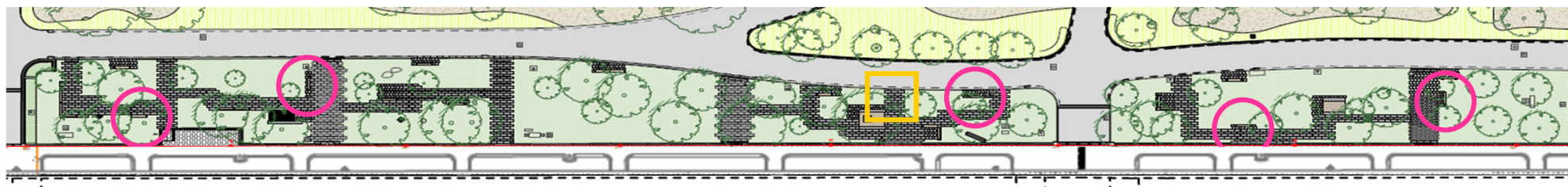
◇ 修正後計画平面図 ※一部抜粋



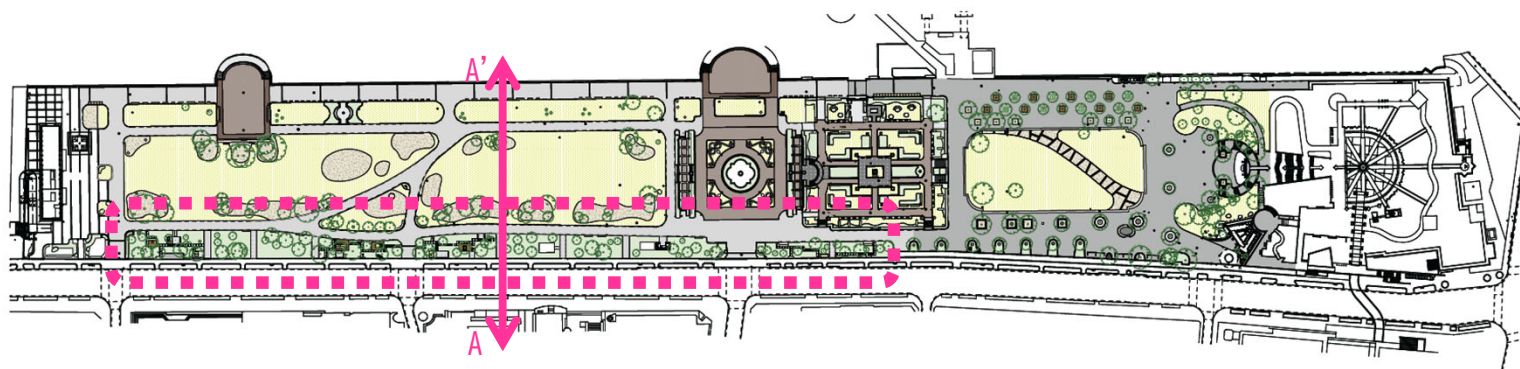
○ : ベンチ・縁台数量変更

□ : 園路線形変更

◇ 修正前計画平面図（11/28時点） ※一部抜粋



公園の外周柵の機能を基本とし、公園通りでのイベント時などに イチョウ並木の下で通り沿いを眺められるベンチとする

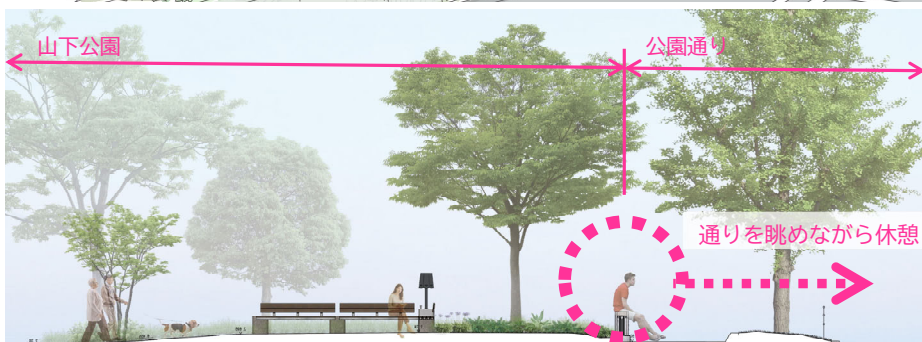


外周柵はフラットバー形状とし、またイベントなどの機会には、イチョウ並木や通り側の景観を楽しみながら休むことができます（平常時は主に外周柵としての機能を果たし、散策後に気軽に休むこともできる施設として想定しています）



イベント時の山下公園通りのイメージ（歩行者天国）

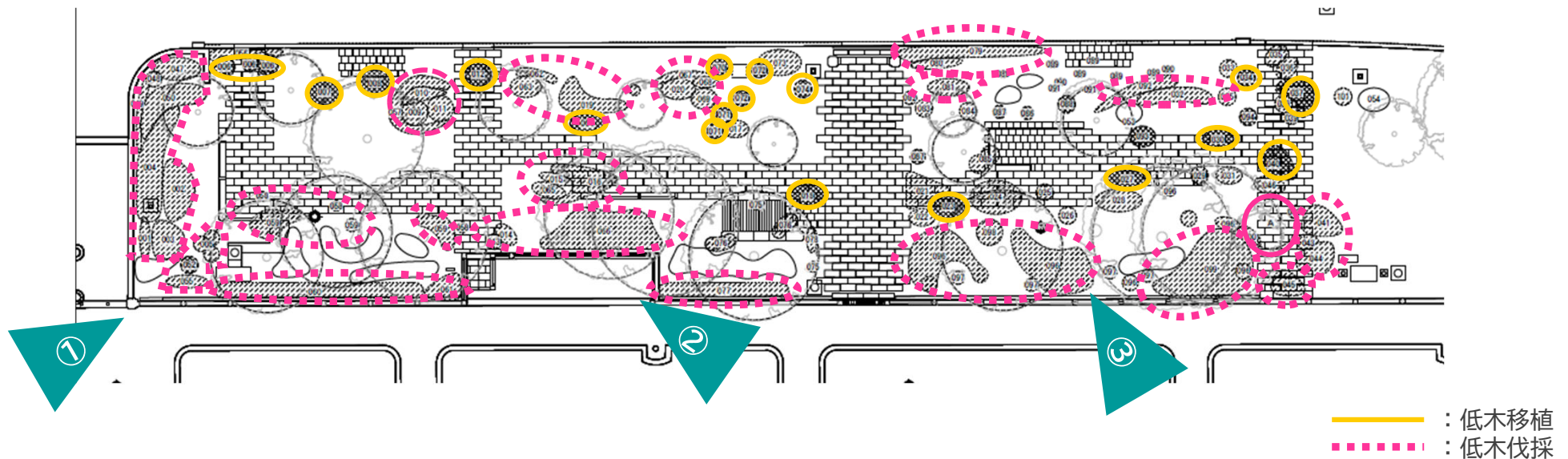
※山下公園通りでは山下公園通り周辺地区まちづくりビジョンを策定し、エリアの歴史や特性を踏まえた魅力的なまちづくりを推進



座ることも可能な柵のイメージ
（日本大通）

高木は緑陰を確保するため現状の位置で保存 動線や景観の支障となる中低木・地被は伐採や移植を行う

〔例として、ワーフハウス前エリアの低木の処置予定を示します〕



高木は伐採等を行わず 保存



公園通り沿いの植栽帯内では、夏は日影の中で／冬は葉が落ちた陽光の中で休むことができる

公園通り沿いの既存植栽帯内の緑陰にベンチ・縁台・小路を設置

画像 ©2026 Google、地図データ ©2026



8月撮影（ベンチ等を設置することで緑陰の中で休むことが可能）



12月撮影（落葉し、植栽帯へ部分的に陽光が差し込む）